

# 学生が創る子どもの居場所 ～地域に根差した支援活動を目指して～

団体名 ● 食☆活(子ども支援活動) / 代表者名 ● 高橋美衣(経済学部経済学科3年)

## はじめに

『食☆活』は、学生主体で運営するボランティア団体として発足し、「子ども食堂の実施」、「定期的(月1回程度)な外部ボランティア活動への参加」という目標を実現するため、ボランティア先確保や目標達成に向けた仕組み作りに取り組んでいる。

## 活動内容

### 1. 千坂小学校での挨拶運動

千坂厚生保護女性会の皆さんと共に、千坂小学校に通う児童の皆さんへ元気よく挨拶運動を行った。

### 2. 少年院における学習支援

高校卒業認定の取得を目指している非行経験のある少年に対して、対一の方式で学習指導を行った。お互い緊張せず、2時間という限られた時間を終始和やかな雰囲気ですごすことができた。

### 3. 他団体によるお弁当配布会参加

子ども食堂運営に向けた情報収集を兼ねて、「Smileykitchen ごはん」主催のお弁当配布会にボランティア参加した。コロナ禍の影響で参加できなかった8月を除き、7月(準備段階)から10月までの間、毎週4～5名程度が参加し、お弁当配布の他、交通整備やアンケート対応などを行い、学生が実際に子ども食堂を実施する際に必要になるであろう知識や経験を多く得ることができた。

### 4. 『食☆活』主催の子ども食堂の実施

2021年12月26日(日)に金沢星稜大学内で初めての子ども食堂を開催した。開催日直前に県内でクラスターが発生したことを受け、手作り弁当の調理過程におけるウィルス混入等を回避するため、その場で焼いた焼き芋と業者から入手したおにぎりを配布する形となった。当日は数世帯の家族に参加いただき、併せて開催したイベント(オーナメント作り)では笑顔も多く見られ、無事に第1回の子ども食堂主催をやり遂げることができた。

## 成果、結果の考察

ボランティアに参加して様々な形で子ども達と関



焼き芋配布やイベントで参加者と交流

わることで、社会貢献の達成感とともに、問題を抱えた子ども達の現状を肌で感じる事ができた。また、ボランティア先を訪れることで、今まで知らなかった地域の魅力に触れることにも繋がった。

コロナ禍の影響もあり、今年度の子ども食堂の実施は一度のみとなった。しかし、参加者からは、また実施してほしいという肯定的な意見をいただいております、これからも多くの学生が参加できる形で子ども食堂を実施し、地域貢献活動を継続していきたい。

## 今後の課題、展望

今年度はコロナ禍の影響が大きく、外部ボランティアへの参加、子ども食堂の実施ともにスムーズにはいかず、団体として厳しい滑り出しとなった。しかし、そのような状況の中でも感染症対策を講じながら子ども食堂の実施にこぎ着けることができたことは良い経験になった。来年度は、他大学の学生も集まる外部ボランティア(学習支援)への参加も予定しており、今後は、所属ゼミ、学部を問わず幅広い学生を構成員として募集し、活動規模を拡大しながら団体を継続していきたい。



子ども食堂の実施時の集合写真